

●伊予市観光物産協会（仮称）設立に向けた下地づくり

(1)情報収集活動

【活動目的】

活動場所となる、町家、道の駅なかやま、道の駅ふたみは、伊予市内の観光情報発信と物産購入の入り口となっているほか、地域の人々の台所の役割も担っています。法人設立後、これらの拠点との連携が不可欠であるため、連携していくための下地づくりを行っています。

【活動内容】

- ①商品を卸している生産者、事業者からの情報収集
- ②伊予市の物産の情報収集
- ③観光客のニーズ（ウォンツ）調査
- ④各拠点の一年の人の流れ・物産の流れ調査
- ⑤地元の人の声の吸い上げ
- ⑥観光物産協会(仮称)設立に向けての人材探し
- ⑦旅行商品企画・提案にあたっての基礎情報の収集
- ⑧各拠点のつなぎ役となり、伊予市内の人やお金が循環する基盤づくり

—手づくり交流市場 町家での活動—

町家に出荷している生産者さんたちへの取材



地域おこし協力隊のイベント



スタッフの日常業務風景



—道の駅なかやま—

活動拠点



こねこね亭の蕎麦職人



—道の駅ふたみ—

活動拠点



商談中



観光いちご園（窪中農園）



スタッフの日常業務風景



毎月のビーチクリーン活動 特に冬は景観美化に力を入れている



(2)各事業者さんとのつながり

情報収集活動を行うことで地域の方たちとの新たなつながりが生まれています。地域に活動拠点があることで、地域の方との関わりの敷居がなくなり、たくさんの情報と人々を紹介していただきました。

現時点では、どう繋がっていくかわかりませんが、確実に新規法人設立または設立後の動きに絡んでくると確信しています。

奥島観光さんのトゥクトゥクをきっかけにワークショップ参加につながりました。



こたろう博物館さんには、コロナ禍における伊予市のマイクロツーリズム探訪を開催していただきました。



上灘漁協共栄網さんの漁を特別見学させていただきました。



伊予市周辺の情報発信をしているヒノボリさんと、週に一度のclubhouseで旬な伊予市情報を語りあっています。



シゼンタイさんは、自然栽培の父 福岡正信さん生誕の地伊予市に農学校を設立しました。その活動に全国の企業が注目しており、伊予市に人々がやってくる流れが出来るため、新規観光物産協会との関わり代を模索しています。

老舗ポン菓子工場金沢製菓さんは世代交代をして、直売とテイクアウトのお店を新規オープンしました。時代と共に業態を変化させ、古くて新しい商品を提案されています。ワークショップにも参加していただきました。



(3)ワークショップ開催

令和4年度内の法人「観光物産協会（仮称）」の設立を目指しています。新規法人にどのような機能をもたせどのような事業展開を行うかなど、ワークショップを通して多くの人から意見・アイデアを出してもらいました。

現会員さんはじめ、あたらしい観光協会に興味を持っていただいた市民の方に参加していただきました。伊予農業高校生と松山大学生にはアンケート参加をしてもらいました。

自分事を前提にそれぞれの事業展開に関わるイメージで意見出しをしていただき、とても能動的に参加していただきました。

- 第一回 「伊予市観光物産協会って何？～あなたが思う伊予市の魅力や美味しいものを教えて下さい～」
- 第二回 「自分のことを伝えよう！～伝える 聴きあう 深める 共感し合う～」
- 第三回 「あなたが事業をとして“やりたいこと”、“やろうとしていること”、“やっていること”、“その他やめようとしていること”は？」
- 第四回 「これまでを経て、自分にできること・応援したいこと・シェアできること・こうだったいなをつなげてみる」



ワークショップは関わる人たちの自分事づくりを軸として開催しました。会員さんや市民の方にはたくさんの切実な意見をいただきました。参加者の皆さんから自分事を引き出し、その意見の吸い上げを目的としていましたが、それ以上に主催者側の私たちの自分事が浮き彫りになるワークショップでした。

組織同士で事業が始まるのではなく、個と個がつながりプロジェクトが始まる時代になってきている今、ワークショップを通して参加者の人となりを知り、何を考え、しようとしているのかを知ることで今後の動きにつながってくると感じています。

個と個をつなぐ存在として新規法人にはその大きな役割があると思い、このようなワークショップになりました。